

関連項目：教育活動プラン⑥

心豊かでたくましい子どもの育成 — 心をみがく自問清掃を通して —

目的

本校の児童は、より高い目標を持ち主体的に活動しようとする態度が脆弱な面が見られます。そこで、「自分を見つめ、自分をみがき、よりよい自分に高めようとする心豊かでたくましい子ども」を育成することを目標に、自問清掃を核とした取組を推進します。

内容

● 自分を見つめ、生き方を考える自問清掃の取組

「自問清掃」で育む3つの力

清掃活動を「自問」の時間とし、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を磨き、「自発的に自分の心を磨き、成長するための活動」ととらえ直し、全職員が共通理解して、児童への接し方を変えていった。

<自問清掃でみがく3つの玉>

- 「がまん玉」 … 15分間、黙って清掃ができる
- 「しんせつ玉」 … 友だちのよいところを見つけたり、気配りしたりして助け合える
- 「みつけ玉」 … 人が見つけていない場所や方法、さらに時間いっぱい仕事を見つけられる

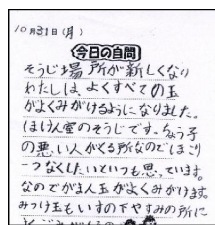
● 感動を伝える教師のIメッセージ

「自問」とは、自ら進んで問うことであり、強制されて問わされることではなく、「信じて待つ」ことによって引き出される自発性こそが鍵となる。

そこで、この「自発性」を引き出すために、「私は」という自分が主語であるIメッセージを教職員全員が送ることを心がけた。



<教師の姿勢>



- 教師は、全職員が年1回ずつ、自問清掃についてのIメッセージを放送で伝える。そのために、「Iメッセージについての研修」を行った。
- 教師は、掃除の時間に3つの禁（ほめない・叱らない・比べない）で、児童を見守った。
- 教師は、児童の一人一人の自問（自問ノート）にIメッセージを伝えた。
- 教師自身も自問清掃に取り組み、協働の姿勢を示した。

● 自問ノートにみられる児童の変容

集中して黙って活動することが苦手なA男が、しだいに自分自身の姿に目を向けられるようになりがまん玉を磨いて、さぼりたい気持ちになったり、無駄話をしそうになったりする自分に打ち勝とうとするようになってきた。

	6月	9月	1月
自問ノートのA男	がまん玉をみががりました。しゃべらないで、同じところを何回もふきました。しゃべりそうになったから、ちょっと休んで、がまん玉をみががりました。	今日は、しゃべってしまいました。ちりどりでごみをとる時、しゃべってしまいました。よごれているところがあつたのにしゃべってしまいました。ぞうしんを取るときもしゃべってしまいました。	ぼくは、がまん玉をみががっています。水が冷たいけどがまんしてはばってふいています。つかれてふくのをやめようとしたけど、学校と心がきれいになるのがまんしました。もっときれいにします。
教師のIメッセージ	ガラスケースを何度もみががっていましたね。とてもきれいになっていました。しゃべりそうになった時、しゃべらないで休んだのがすごいと思いました。	ついしゃべってしまう自分に気がつくようになったんですね。すごい自問ができたなと思いました。	毎日とっても冷たいでしょうね。やめようとしたけど、掃けられたというのを喜んで、すごいがまん玉だと褒めました。先生はうれしくなりました。

成果

- 自問清掃がねらいとした「がまん玉」「しんせつ玉」「みつけ玉」の心が、清掃時間だけでなく、学習や生活全般の行動の中に表れつつあり、児童の心に根付き始めているとともに、「自問」する態度が育ちつつある。【心がきれいになるから掃除が楽しいと答えた児童 3%（昨年5月）→48%（今年1月）】